

高病原性鳥インフルエンザの発生予防対策

〈 一般の方、小規模養鶏及び愛玩鳥飼い主の方へのお願い 〉

野鳥への餌付けはやめましょう

主な感染ルート



● 鶏や愛玩鳥の飼い主は次のことを守りましょう ●

- ① 放生飼育は止めましょう
- ② 鳥小屋周辺の清掃・消毒をしましょう
- ③ 世話用の衣類や履き物を準備しましょう
- ④ 飲み水は、できるだけ水道水にしましょう
- ⑤ 野鳥やネズミが鳥小屋に入らないようにしましょう

🐾 野鳥は静かに見守りましょう

餌付けは、過剰な野鳥の飛来を招いたり、渡りの時期を遅らせるなど、生態系を乱す原因となります。
餌付けの場所から、周辺の養鶏場等にインフルエンザウイルスが持ち運ばれる可能性があります。

🐾 発生地域への旅行は避けましょう

海外・国内の発生地域への旅行は避けましょう。
旅行先で、養鶏場や生鳥市場等には近づかないようにしましょう。
空港では靴底を消毒しましょう。

🐾 放生飼育はやめましょう

野鳥との接触によって、感染の危険性が高まります。

🐾 鳥小屋周辺の清掃・消毒をしましょう

散らかった餌などに野鳥が集まります。
餌箱は小屋の中に置き、こぼれた餌は片付けましょう。
鳥小屋周囲は定期的に消毒しましょう。(消石灰を1㎡あたり1kgが目安です)
野生動物が集まらないよう、周囲の草刈や片づけを行いましょう。

🐾 野鳥やネズミの侵入を防止しましょう

野鳥やネズミがウイルスの運び屋になります。
鳥小屋は防鳥ネットや金網で覆い、穴・すき間・破損箇所は修理しましょう。
冬は防寒もかねて、ビニールシートなどで覆いましょう
ネズミやハエは定期的に駆除しましょう。

🐾 飲み水には、消毒された水道水を使用しましょう

池や川は、水鳥(白鳥やカモなど)の糞で汚染され、飲み水を介して感染する可能性があります。

🐾 ウイルスの持ち込みを防ぎましょう

鳥小屋にウイルスを持ち込まないよう、手指をよく洗い、専用の衣類や履物を用いて世話をしましょう。(洗濯や消毒は定期的に)
外来者は、なるべく鳥小屋に近づけないようにしましょう。